



学校だより特別号

令和6年9月12日

札幌市立福住小学校

『令和6年度 全国学力・学習状況調査』 本校6年生結果概要等のお知らせ

令和6年4月18日に、全国の6年生を対象として『令和6年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国の児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

札幌市では、「学ぶ力～自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力」「豊かな心～他者を思いやる心、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心」「健やかな体～生涯を通じて運動を親しむための基礎を培うとともに積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力」を中心とした教育の推進を目指しています。本校でも、これらの視点を大切にした教育活動を進めており、今回の学力・学習状況調査の結果についても、全国の結果と比較・分析し、本校の教育活動の充実に生かしてまいります。

また、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解いただきたく存じます。

【国語】 本校6年生の調査の結果概要及び学びの改善の方向

本校6年生の調査結果の概要

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◎全国平均よりも
上回っています。

□「情報の扱い方に関する事項」

◎全国平均よりも、
上回っています。

□「話すこと・聞くこと」

○全国平均と、ほぼ同程度であるが、やや上回っています。

□「書くこと」

○全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。

□「読むこと」

◎全国平均よりも
上回っています。



調査における成果と課題

●「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、漢字など、言語に関する知識を深め、適切に書いたりする力が定着していますが、正答率の低い問題が見られました。

◎情報の扱い方に関する事項」では、原因と結果など情報との関係について、理解することができています。

○「話すこと・聞くこと」の領域については、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力が定着しています。

○「書くこと」の領域では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表す力が概ね定着しています。

◎「読むこと」の領域については、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力や表現の効果を考える力が定着しています。

学びの改善の方向

☆「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域については、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できる学習活動の充実を図ります。

☆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書き、自分の考えを伝え、書き表し方や表現を工夫できるように学習活動の充実を図ります。



【算数】本校6年生の調査の結果概要及び学びの改善の方向

本校6年生の調査結果の概要

- ☐ 「数と計算」
◎全国平均よりも
上回っています。
- ☐ 「図形」
◎全国平均よりも
上回っています。
- ☐ 「変化と関係」
◎全国平均よりも
上回っています。
- ☐ 「データの活用」
○全国平均よりも
上回っています。



調査における成果と課題

◎全ての領域で全国平均を概ね上回ることができていることから学力の定着が図られていることが分かります。日常の学習指導、及び、家庭での取組の成果が表れています。

●「データの活用」の領域では、データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明する力が定着していますが、円グラフの特徴を理解し、割合について読み取る問題において、課題がありました。

学びの改善の方向

☆「データの活用」の領域については、円グラフの割合の読み取り方を説明し合う学習活動の充実を図ります。

また、日常の事象など様々な問題場面から、必要な情報を的確に読み取り、筋道を立てて考えたり、説明したりする学習活動の充実を図ります。



【児童質問紙調査】本校6年生の結果の概要

- ◎「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は99.1%（全国平均96%）となっています。
- ◎「人が困っているときは、進んで助けていますか？」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は56.1%（全国46%）となっています。
- ◎「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は43.9%（全国平均34.9%）となっています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は38.6%（全国平均43.4%）となっており、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」と回答している児童の割合は21.1%（全国平均15.9%）となっています。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は54.4%（全国平均60.6%）となっており、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」と回答している児童の割合は21.9%（全国平均17.5%）となっています。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は45.6%（全国平均50.8%）となっています。

全国学力・学習状況調査の結果を受けた本校の今後の方向性

本調査の結果から、国語と算数の学力面については、全般的に学習内容の定着が図られていることが明らかになりました。

本調査結果における成果や課題、さらには札幌市で目指している「生涯にわたって学び続けるための『学ぶ力』の育成」を踏まえ、本校では、「学ぶ意欲の向上」「基礎的・基本的な知識・技能の定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」に向けた取組をさらに充実させます。また、学校・家庭・地域が連携して「『学ぶ力』の育成の習慣づくり・環境づくり」を推し進めるとともに、ICTを活用した自分の考えや意見を分かりやすく伝える学習活動を進めてまいります。

本市学校教育の重点の基盤である「人間尊重の教育」の観点では、自分が大切にされているという「自己存在感」、自分を肯定的に捉える「自己肯定感」に課題が見られました。本課題を解決できるように、子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する相互承認の感度を高められるよう互いのよさや可能性を発揮できる「学習活動づくり」、互いのよさや可能性を認め合える「人間関係づくり」、安心して過ごすことができる学校の「環境づくり」を進めてまいります。

なお、3学期の学年末懇談会の時期に、今年度の取組の具体的なことからについて、御説明いたします。今後とも、皆様の温かい御支援・御協力をよろしくお願いいたします。